

資本主義を乗り越えた 未来社会をめざす党

新型コロナ・パンデミックは、貧富の格差の拡大、地球規模での環境破壊という、資本主義の存続が問われる大問題を明るみに出しています。

感染症による犠牲は、富める者と貧しい者とに平等にふりかかっているわけではありません。アメリカでは、貧困のもとにある黒人の死者は白人の2倍以上となり、経済格差が「命の格差」となっています。先進国と途上国との格差拡大の矛盾も噴き出しています。

なぜ次々と新しい感染症が起こるのか。人間による無秩序な生態系への侵入や環境破壊によって、動物と人間との距離が縮まり、ウイルスが人間に感染したことが、専門家から指摘されています。利潤を追求するあまり、自然環境に人間が介入して招いた危機という点では、深刻な気候変動（地球温暖化）とも同じ根っこをもっています。

経済格差も自然環境も顧みず、資本の利潤を際限なく追求し、生産のために生産する——「利潤第一主義」を本性とする資本主義の体制が、コロナ危機でいよいよ鋭く問われているのです。

日本共産党は、資本主義は人類の到達した最後の社会ではない、人類はこの苦しみと矛盾にみちた社会を乗り越えて、その先の社会——社会主義・共産主義にすすむことができるという大展望をもっています。

未来社会の最大の特徴は、すべての人間の自由で全面的な発展を可能にすることにあります。人間による人間の搾取がなくなり、社会のすべての構成員が平等に生産活動にあたることで、労働時間を大幅に短縮することができます。労働時間が短縮され、自由な時間が増えれば、人間は自分の能力を存分に発達させることができるでしょう。芸術作品を創りたい人も、スポーツをしたい人も、すべての人が自分の潜在的な能力を開花させる自由な時間を十分に得ることができる社会になるでしょう。

そのために、主な生産手段を個々の資本家の手から社会の手に移す「生産手段の社会化」を行い、生産の目的を、資本の利潤ではなく、社会と人間の発展に変える——これが、社会主義・共産主義の社会への変革です。